



こんなリハビリしています



理学療法士の村上です。今回は、リハビリ会議を実施し目標達成することができた、A 様を紹介します。A 様は既往歴として15年前の脳梗塞で右麻痺が残存し、その後も脳梗塞を繰り返し発症しています。R2年10月、外出中に転倒し右脛骨高原骨折を受傷し手術、その入院中に脳梗塞再発し、失語症・右同名半盲の後遺症が残りました。杖歩行自立まで機能回復し退院となり、在宅生活が続けられるよう、体力の向上、失語症のリハビリ目的で、R3年4月からデイケア利用開始となりました。

転倒の再発予防として、下肢体幹筋力、耐久性の向上を短期目標としました。そのために屋外歩行・応用歩行練習、階段昇降練習を実施しました。また、日常生活で右手を使用する機会が減っており左肩の痛みもありました。麻痺のレベルとしては軽度であるため、右手の動作練習、疼痛緩和のため肩のリラクゼーションをリハビリメニューとして設定しました。今回の失語症で、物の名前が表出しにくくなり、会話することに支障が出ていました。コミュニケーション能力の向上や他者との交流が行えるよう言語聴覚士によるリハビリも実施していくことになりました。

目標達成に向けて、利用開始月からリハビリ会議を実施してきました。リハビリ会議では A 様、ご家族様、医師、ケアマネジャー、担当リハビリ職員が参加し、A 様について各々が気になることや様子を情報共有したうえで、次回に向けての目標やリハビリ内容の再検討を行ないました。リハビリ開始当初は、屋外歩行練習や階段昇降練習を行うと疲労の訴えがありました。ご自宅周りの散歩に出かけられるようになっていられるとのお話が会議の中で奥様からあり、その後のリハビリ会議でも、杖を使用せず1日2回、1時間ほど散歩できるようになっているとのお話がありました。杖なしでの屋外歩行練習を実施した際、右同名半盲による見えにくさで時々障害物にぶつかってしまうことや自制内のつまずきがあることなどの注意点を伝えました。リハビリを開始し半年経過しましたが転倒無く過ごせており、体力が向上し散歩が可能となり短期目標を達成することができました。

次の目標として、受傷前の楽しみであった畑作業をしたいという A 様の希望、箸を使用して食べて欲しいという奥様の希望をもとに、リハビリを行っております。箸の使用は右肩に力が入ってしまい実用的には難しいですが、A 様の意欲を大切にしながら練習していきたいと思っております。今後も、転倒が無いよう身体機能を維持しながら、QOL 向上を目指してリハビリを実施していきたいと思っております。



言語療法の一環として
他利用者様と一緒に
ST くらぶに参加しています。

すぐろくでは止まったマス目のお題の名詞を悩みながらも答えることができていました。